

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	宇井美代子	所属	玉川大学
研究集会等名称	公益社団法人日本心理学会 ジェンダー研究会 「実践におけるジェンダー」 (日本心理学会第78回大会公募シンポジウム)		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 約 30 名 (うち認定心理士 1 名) 非会員 約 10 名 (うち認定心理士 0 名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>○公開研究集会の目的 昨年度の公開研究集会において、研究者としてジェンダー問題に取り組むだけでなく、日常生活に染み込んでいるジェンダー問題に自覚的になることも重要であり、包括的にアプローチすることの必要性が確認された。本年度の公開研究集会では、研究者として、臨床家としてジェンダー問題に取り組む中で見出された研究者・臨床家自身の中に組み込まれていたジェンダーの枠組みや、制度の中に埋め込まれていたジェンダーの枠組みを共有するとともに、これらの枠組みにどのように対応していくべきかについて検討することを目的として、開催された。</p> <p>○公開研究集会の実施内容・成果 荘島幸子氏からは性的マイノリティの当事者を対象とする質的研究を進める中で、自分自身が持っていたジェンダーの枠組みが当事者から指摘されたことや、自分自身が持つジェンダーの枠組みにどのように取り組んできたのかについての話題提供がなされた。草柳和之氏からは、臨床家としてDV問題に取り組んできた経験から、男性が持つジェンダーの枠組みがカウンセリング等に及ぼす影響についての話題提供がなされた。神前裕子氏からは、周産期医療において臨床家として取り組んでく中で見られた、妊産婦が有しているジェンダーの枠組みを中心に、話題提供がなされた。これらに対して、臨床家である村本邦子氏と研究者である櫻坂英子氏から指定討論がなされた。その結果、研究者・臨床家の中に、また制度の中に埋め込まれているジェンダーの枠組みが、研究・カウンセリング対象の把握に影響を及ぼしうることや、ジェンダーの枠組みに自覚的になることの重要性が再確認された。</p> <p>○将来計画 本公開研究集会において、研究者・臨床家・制度のそれぞれの中に深く根ざしているジェンダー問題が明らかにされた。しかし、社会の中で生活している研究者・臨床家が、ジェンダー問題に対して、完全に解放され、中立的な立場になることもできない。その中であっても、ジェンダー問題に取り組む研究者・臨床家が現場に対してどのような貢献ができるのかについて、検討していきたい。</p>		

2015年2月24日

日本心理学会研究会 2014年度会計報告書

研究会名称 公益社団法人日本心理学会 ジェンダー研究会

研究会番号 研14004

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
2014年9月11日	講師謝礼（草柳和之氏）	¥10,000
2014年9月11日	講師交通費（草柳和之氏）	¥28,700
支出合計		¥38,700